2019 年度名古屋学芸大学健康・栄養研究所 研究・実践報告

■研究・実践の課題 (テーマ)

栄養教諭の全校配置の可能性 一栄養教諭の工夫と探求の実践を通して一

- **■主任研究者** 安達内美子
- **■共同研究者** 新谷裕

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

今回は、一昨年の研究目的の「栄養教諭の増員を行うことによって、学校教育において 食育指導が徹底され、各年齢層の健康が増進され生産労働者の負担も軽減され、安心して 生活できる社会が実現できる」とした論文を基に、できる限り多くの自治体並びに学校を 訪問して直接栄養教諭等の訴えを聞くことにした。調査方法としては以下のとおりである。

- (1) 愛知県の栄養教諭の採用方法が異なる西日本の自治体の実態を探る目的で、事前に自治体に質問内容を連絡して回答の依頼と訪問日の検討を行った。
- (2) そのうち牧之原市と千葉市の実態を調査する目的で、現地に赴き直接自治体の担当者及び学校長、栄養教諭等にインタビュー法による調査を行った。
- (3) インタビューの内容は12項目で、①給食の方式(センター、自校、親子、テリバリー方式等)のいずれか。②小中学校児童生徒数(食数調査の為)③栄養教諭の配置状況④学校給食の具材⑤栄養教諭に関する実態調査の有無それを基に自治体等との懇談会等の有無⑥将来的な栄養教諭の配置に関する構想の有無⑦ティームとしての学校として、学校給食及び食育に関する取り組みの有無(地域活動等や食品企業等との連携等)⑧少子高齢化によって起こりうる問題への対策の有無⑨食物アレルギー等による学校給食の事件や事故への対策の有無⑩児童生徒の家庭の貧困問題への対策の有無⑪栄養教諭の資格取得に関する援助(専修免許、家庭科教諭の免許取得等の斡旋等)⑫自由な意見交換等である。
- (4) インタビュー後、学校長も含めて学校要覧や学校経営案等を基に食育に関する項目に ついての話し合いを行った

2つの市(千葉市、牧之原市)の栄養教諭の採用方法は同じでも勤務状況に違いがある。牧之原市では、新採用は学校栄養職員で3年の経験の後に栄養教諭に任用替えしている。市には小中13校(小10、中3)があり、自校方式2校とセンター方式(市立と組合立)が2か所で11校である。千葉市は学校栄養職員で3年の経験した後に栄養教諭に任用替えしていることは牧之原市と同様である。千葉市においては小学校111校すべてが自校方式(うち54校が民間委託)中学校55校はすべてセンター方式(3つの学校給食センター)である。すべての小学校は、採用された栄養教諭は他校の指導は行わずその学校のみの勤務である。12のインタビュー項目と学校経営案については、訪問した小学校には専属の栄養教諭がおり、しっかりとした食育計画等がなされていた。しかし、牧之原市の小学校は、近隣の学校等への食育指導も兼務のため多忙であり、栄養教諭の増員を強く求めている。同

じく千葉市においても増員の希望は強いが、1校のみの勤務のため地域との連携を密にとった意欲的な取り組みがなされていた。